

細胞内ガラクトース測定センサーの 開発と創薬への応用

理化学研究所 生命機能科学研究センター チームディレクター Sa Kan Yoo

2025年6月3日

-



開発技術

細胞内のガラクトースの濃度を簡易的にハイスループットの実験系で測定 可能な系を開発した

(Sakizli et al. Plos Biology 2024, 特許申請中)

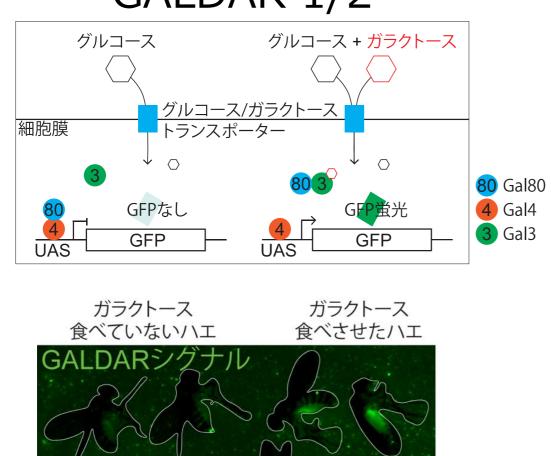
応用

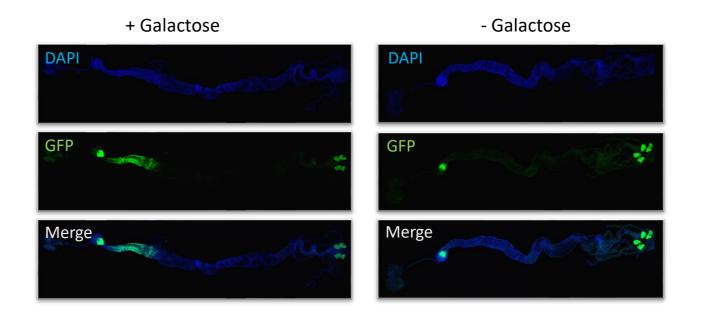
- 1. ガラクトースの生物学・医学に応用可能(ただ、これは汎用性が低い)
- 2. グルコース・ガラクトースの細胞内取り込み評価に使える。 グルコースのトランスポーターは糖尿病やがん、肥満の治療薬の対象であり、創薬のプラットフォームに使える。



酵母に本来備わっているGalシステムを、多細胞生物の細胞に導入。ショウジョウバエでの実験を論文発表したが、哺乳類の細胞でも使用可能なことを確認済み。

GALDAR 1/2



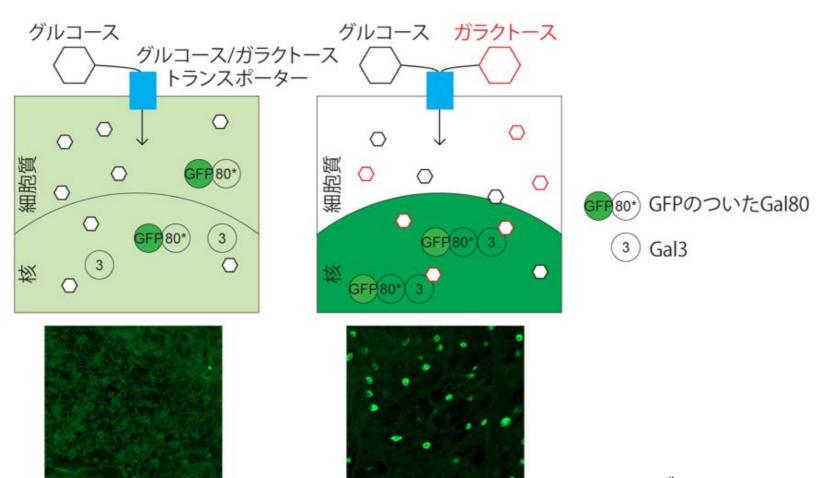


図はいずれもSakizli U, Takano T, Yoo SK (2024) PLoS Biol 22(3): e3002549から引用



酵母に本来備わっているGalシステムを、多細胞生物の細胞に導入。ショウジョウバエでの実験を論文発表したが、哺乳類の細胞でも使用可能なことを確認済み。

GALDAR 3



図はいずれもSakizli U, Takano T, Yoo SK (2024) PLoS Biol 22(3): e3002549から引用



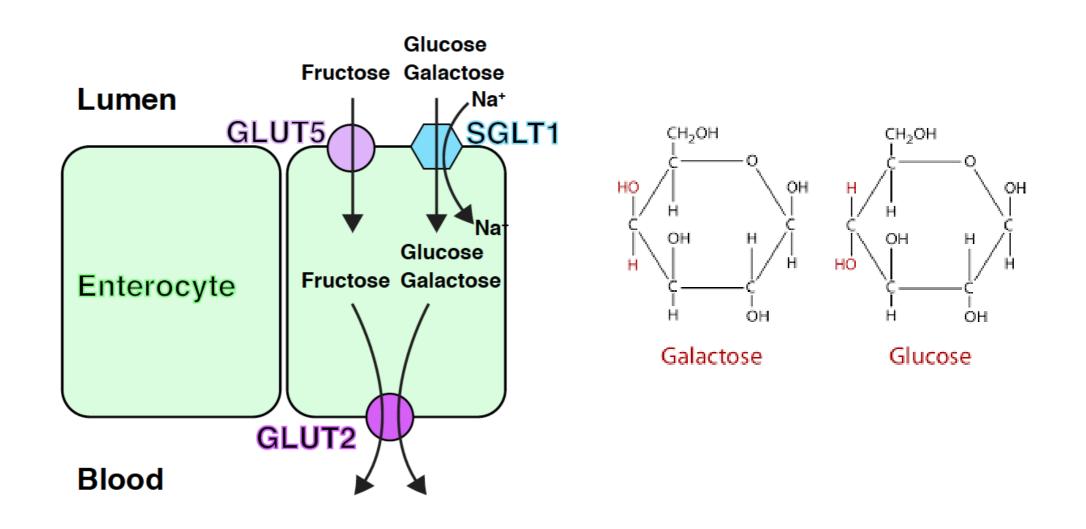
応用

- 1. ガラクトースの生物学・医学に応用可能(ただ、これは汎用性が低い)
- 2. グルコース・ガラクトースの細胞内取り込み評価に使える。 グルコースのトランスポーターは糖尿病やがん、肥満の治療薬の対象であり 、創薬のプラットフォームに使える。

新技術説明会 New Technology Presentation Meetings!

ガラクトースとグルコースは同一のトランスポーター (GLUT, SGLT)で細胞内にとりこまれる。

このことから、GALDARは、グルコース/ガラクトースの取り込み評価に使える





グルコース・ガラクトースの取り込み評価に使える。 グルコースのトランスポーター(GLUTやSGLT)は糖尿病、がん、肥満の 治療薬の対象であり、創薬のプラットフォームに使える。

SGLT2阻害薬 (糖尿病、腎臓病):承認薬10種以上

Empagliflozin (ベーリンガー、イーライリリー)、Dapagliflozin (アストラゼネカ)、Canagliflozin (JJ)、Ertugliflozin(メルク)、Ipragliflozin (アステラス)、Tofogliflozin (三和化学、日本化薬)

GLUT阻害薬(主にがん): 前臨床段階

Bay-876(Bayer、前臨床), WZB117(研究用)、Glutor(研究用)



従来技術とその問題点と新技術の特徴

従来、ガラクトースやグルコースの細胞内への取り込みを測定するには、<u>放射性グルコース</u>や蛍光グルコースアナログを使う。放射性グルコースは安全性の面、蛍光グルコースは価格・特異性の問題点

GALDARは、<u>非放射的</u>に、簡便かつ特異的に生きた細胞からガラクトース・グルコースの取り込み評価をできる。



想定される用途

- ガラクトースの生物医学研究
- GLUT/SGLT阻害薬は糖尿病・がん・肥満治療に着目されているため、その創薬プラットフォームに使用可能

(



実用化に向けて

- すでに、哺乳類培養細胞でGALDARが使用可能である ことを検証済み。
- 哺乳類培養細胞にGALDARを発現させる必要があるが、 一度培養細胞系を確立すれば、半永続的に使用可能
- 任意のGLUT, SGLTを発現させることで、トランスポーターの特異性解析が可能



企業への期待

- 単糖の細胞内への取り込みや、糖尿病・がん・ 肥満治療薬開発を目指す企業において、本技術 の導入が有効
- また、GALDARシステムを、研究ツールとして 生物・医学研究者に販売することも期待

11



企業への貢献、PRポイント

- 本技術の導入にあたり必要な追加実験を行うこと で科学的な裏付けを行うことが可能。
- 本格導入にあたっての技術指導等



本技術に関する知的財産権

• 発明の名称 : ガラクトース検出用キット、細胞及び形質転換体

● 出願番号 : 特願2025-040166

• 出願人 : 国立研究開発法人理化学研究所

発明者: Yoo Sa Kan、Sakizli Ugurcan



お問い合わせ先

株式会社理研イノベーション

新技術説明会事務局

Email: <u>license-contact@innovation-riken.jp</u>